

2026 年 9 月 24 日
 日本経済

 りそなホールディングス 市場企画部
 ストラテジスト 梶田 伸介

8 月消費者物価指数(CPI): コアは鈍化も、基調物価は底堅さを維持

要約

- 8 月 CPI は総合+1.9%、コア+1.7%、コアコア+1.9%。コアは前月から鈍化した一方、コアコアは横ばいとなり、基調的な物価上昇圧力は底堅さを維持。
- 内訳では、政策要因などを背景にエネルギー価格が低下したほか、生鮮食品を除く食料も鈍化。一方、コアコアは季調済み前月比+0.3%となっており、CPI 鈍化を基調物価の弱まりとみるのは早計。
- 先行きは秋口の食品値上げや人件費・物流費などの価格転嫁が焦点。8 月の鈍化が続くとは限らず、秋口の物価再加速リスクにも注意が必要。

8 月 CPI の結果：コアは鈍化も、基調的な物価は底堅さを維持

総務省統計局が公表した 8 月の消費者物価指数（CPI）は、総合 CPI が前年比+1.9%（7 月+1.9%）、コア CPI（生鮮食品を除く総合）が同+1.7%（同+1.8%）、コアコア CPI（生鮮食品及びエネルギーを除く総合）が同+1.9%（同+1.9%）となった。コア CPI は前月から 0.1%ポイント鈍化した一方、コアコア CPI は横ばいとなった。今回の結果からは、エネルギーや食料による物価押し上げ圧力が弱まる一方、それらを除いた基調的な物価上昇圧力はなお底堅いという姿が確認できる。コアコア CPI は前年比+1.9%を維持したほか、季節調整済み前月比では+0.3%と、7 月に続いて比較的しっかりとした伸びとなった。

内訳：エネルギーと食料が鈍化、コアコア横ばい

内訳では、エネルギー価格の低下が目立った。エネルギーは 7 月の前年比+0.6%から 8 月は▲0.7%へ低下し、総合 CPI に対する寄与度も+0.05%ポイントから▲0.05%ポイントへ縮小した。特に電気代は前年比▲2.4%、ガソリンは同▲2.6%となった。総務省の試算によれば、ガソリンの暫定税率廃止や各種政策によるエネルギー価格への押し下げ効果も大きく、足元の CPI には政策要因が相応に影響している。

食料価格も鈍化している。生鮮食品を除く食料は 7 月の前年比+3.0%から 8 月は+2.7%へ低下し、総合 CPI への寄与度は+0.72%ポイントから+0.64%ポイントへ縮小した。これまで物価を大きく押し上げてきた食料価格の影響は、徐々に弱まりつつある。

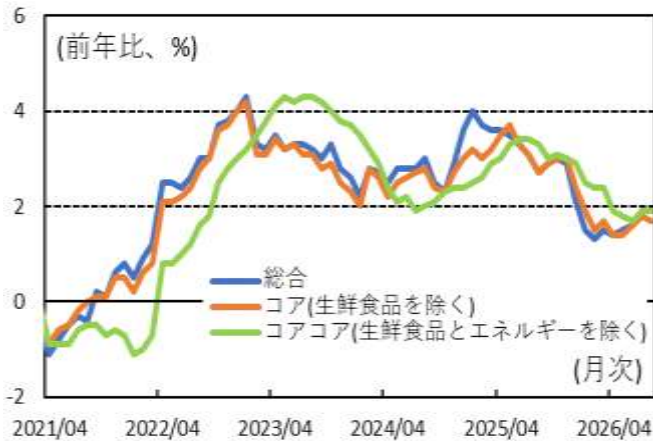
一方、食料やエネルギーの影響を除いた物価は必ずしも弱くない。コアコア CPI が前年比+1.9%を維持したことに加え、保健医療や家具・家事用品など一部の品目では伸びが拡大している。8 月のコア CPI 鈍化を、基調的なインフレ圧力の明確な後退と評価するのは早計であろう。

◎注意事項

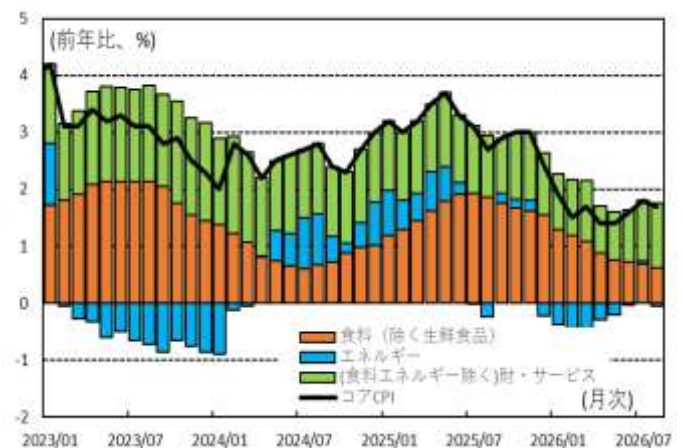
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

(図表 1) 日本 CPI



(図表 2) 日本コア CPI 内訳



出所：Bloomberg

先行き：焦点は秋口の値上げと物価の再加速リスク

先行きは、エネルギー価格の政策要因による押し下げが続く一方、企業による価格転嫁の動向が焦点となる。特に秋口は食品を中心に値上げが予定されており、人件費や物流費、原材料費などのコスト上昇が販売価格へ転嫁されれば、8月にみられたコア CPI の鈍化がそのまま続くとは限らない。

このため、今後は CPI 全体の前年比だけではなく、①食料価格がどの程度再加速するか、②人件費上昇を背景としたサービス価格の上昇が続くか、③エネルギー価格の政策要因による下押しを除いても物価上昇の裾野が維持されるか、が重要となる。

金融政策：CPI 鈍化だけで物価判断を下方修正する内容ではない

8月のコア CPI は前月から鈍化したものの、その背景にはエネルギーや食料価格の伸び鈍化がある一方、コアコア CPI は前年比+1.9%を維持している。したがって、今回の CPI だけをもって基調的な物価上昇圧力が弱まったと判断する材料にはなりにくい。

日銀にとっては、足元の CPI の前年比だけではなく、企業の価格設定行動や賃金上昇がサービス価格などへ波及していくかが引き続き重要となる。今後、秋口の値上げが実際の CPI にどの程度反映されるかを確認しながら、物価上昇の持続性を見極めていくことになる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。